



SSHマンスリー

スーパーサイエンスハイスクール通信



生け簀での説明と餌やり



近畿大学水産研究所大島実験場



海上の生け簀

(主:丸のがマグロで四角のがマダイ)

講演にもあったマグロの稚魚を傷つけずにすく網



SSH特別課外授業「紀南研修」

最初の「近畿大学水産研究所大島実験場」ではクロマグロの完全養殖等について研修しました。七月末に全校生徒対象のSSH特別講演をして下さいました濱田好史教授が実験場長をしてられます。先生のお住まいもこの実験場内にあり、雷による停電なんかがあるとすぐに実験場内を非常用自家発電に切り替えるなどをしないとイケないそうです。今回は前もってご講演いただきましたので、すぐに先生の操縦する漁船に乗って海上の生け簀に行き、実際の研究成果等いろいろと説明いただきました。パナマから研修に来ていた男女2名の方も同行されました。研究所に帰ってきただけは所内をくまなくご案内いただきましたが、生徒達も積極的にいろいろと質問をしていました。ご多忙中にもかかわらず丁寧にご対応賜りました濱田先生および実験場の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

次は、昨年度行けなかった古座川周辺で地質に関する研修を行いました。講師として日本地質学会会員で元近畿大学新宮高校校長の後、誠介先生をお迎えして研修しました。昔の交通(船)の要所である「真砂船」の船着き場での講義から始まり、国指定の天然記念物である「一枚岩」や「虫喰岩」まで、丁寧にご説明いただきました。紀伊半島は深海の付加体からできたというお話しかから、地質は人の歴史や民俗、文化ともかかわりのある場合も多く、これ

らと関連しての県の「ジオパーク」構想や、また一千五百万年前の紀伊半島南部の火山(南北四十キロ、東西二十キロの大きなカルデラ)阿蘇山のような二重火山)があり、火砕流堆積物が遠く奈良の室生まであるという話まで、熱心にご説明いただきました。生徒達も暗くなるまで熱心に質問を繰り返していました。また、夜はホテルで一日の研修のまとめと発表を行いました。

そして翌日、今年も串本海中公園の宇井館長のご案内で館内すみずみまで見て回りましたが、途中は海に入っている臨海実習となりました。潮の引きが悪く海中ではあまり多くの生き物を見ることができませんでしたが、串本だけあって近くの黒潮の影響で世界北限のテールサングの群落や、抜群の透明度と冬でも十五度を下回ることはない温かい水温で、生き物も多く結構楽しめました。

最後に訪れたのが稲むらの火の館で「津波防災教育センター」では地震と津波のお話を伺い、いろいろな展示物で研修した後、「濱口梧陵記念館」でその業績を学びました。

今は「東海地震」「東南海地震」「南海地震」が連動した超巨大地震(日向灘も連動する可能性もある)がいつ来てもおかしくないという現状です。普段からの心がけが、生死をわけるといいます。マニュアルはありません。防災科学の重要性が実感でき、ここでも皆熱心に質問をしていました。



広川町立稲むらの火の館



串本海中公園



古座川研修